

バングラデシュにおける環境教育活動に関心がある、意見交換したい、インターンを考えている、一緒に協働プロジェクトを実施したい等がございましたら、お気軽にご相談下さい!

hideki\_sato@jeef.or.jp  
03-5834-2897



**佐藤秀樹 (国際事業部チーフコンサルタント)**  
JICA 青年海外協力隊員 (派遣国: エクアドル、職種: 野菜栽培)、農業・農村開発コンサルティング会社を経て2010年9月から、JEEFの国際事業部に勤務。主に、バングラデシュで環境教育の技能を活用した、住民による持続可能な地域づくりの活動を実施中。

# アジア 開発途上地域の 地域デザイン

国際コラムパート3  
第1回

社会的弱者を含む  
地域が一体となった  
包括的な教育プログラムの  
必要性

今回からのコラム「パート3」では、地域課題である、開発と環境保全の両立、貧困筆者の約15年の途上国での国際協力業務「地域づくり」の視点を重視し、ワークシート付

をどのようにデザインしながら途上国の主要削減や地域振興を図っていくのかについて、の経験から報告します。特に「教育による地で6回にわたり紹介します。

## アジアの社会・経済発展と 貧富の格差の拡大

アジアでは経済発展に伴い、人々の暮らしが豊かになっている一方で、国や地域によっては、水、電気、道路、橋等のインフラが未整備なために、生活環境が十分でない場所が多々存在します。また、急速な社会・経済の発展が貧富の格差を生み出し、公平で平等な社会づくりが課題となっています。市場原理が働く競争社会の中では、どのような方策や取り組みを導入しても、排除されてしまう人々を生み出してしまい、全く貧困層のない社会などありえないかもしれません。

しかし、社会的に脆弱な立場に陥りやすい人々(子ども、女性、障がい者や先住民等)や貧困層の意見を反映させた、地域が一体となった社会・経済開発を、持続的且つ長期的に進めるためには、学校や家庭での教育に加え

自治会やコミュニティによる、地域での教育プログラムの実践が大きな役割を担っていると考えます。

## 地域の組織化と地域社会教育

開発途上国では、家庭の事情で小学校へ行けずに途中退学する子どもが多いのが現状です。彼らへの識字教育、職業教育や環境教育等を含めた社会教育を地域ぐるみで提供することが、貧困を緩和するためにも、また、地域社会全体の発展を考えた上でも極めて重要です。

そのためには、地域での包括的な教育プログラムを実践するための組織基盤の形成や、行政、教師、自治会等を含めた教育ネットワークの構築が必要とされています。

国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」の17のゴールにある「目標4: 質の高い教育をみんなに」では、「社会的弱者への配慮」、「技術・職業教育

や生涯学習の機会の促進」や、ユネスコの「グローバル・アクション・プログラム」では、「持続可能な開発のための教育(ESD)」による地域づくりの促進」が優先行動分野の一つとして位置づけられています。



## 開発途上国の 環境教育による地域づくりを 考えてみよう!

それでは、次の開発途上国における写真2点(ベトナムとバングラデシュ)をそれぞれ観察し、どのような環境問題があり、地域でどのような対応策を講じることで解決の方向性を見出すこ

とができるのかについて、子どもや女性の視点も考えながら、皆さんがこれまで学習してきた知見や経験を活かして、想像力を働かせながら考えてみて下さい。インドネシアは一つの例として挙げています。対応策については、様々な考え方がありかと思いません。

社会的弱者を巻き込んで地域社会が一体となった、包括的な教育による地域づくりは、今後の課題の一つであると私は感じています。地域住民同士が学びの場をどれだけ多く創出し、自分たちの地域社会づくりを自分事として捉えて進められるか。また、地域住民同士の連携と協働、そしてそのリーダー育成が開発途上国の今後の地域づくりの大きな課題の一つであると考えられます。

	ベトナム 河川敷	バングラデシュ 沿岸流域	インドネシア エビ養殖場の跡地
環境問題			
解決へ向けた対応策		ヒント) 昔、沿岸流域はマングローブ林で覆われていました。	例) 地域に自生していたマングローブ林の破壊により、防災林としての役割や漁場資源の減少を招いている。 例) 環境教育を通じた地域住民参加型の、マングローブ林の植林活動と維持管理など。特に、本地域周辺で漁業への女性の参画を図るために、適切な漁業資源管理による生計向上の研修会を含めた環境教育のプログラムを提供する。

文責: 佐藤秀樹  
(国際事業部チーフコンサルタント)